

# 北東アジアにおける化学物質管理 についての動向

森 秀行

財団法人地球環境戦略研究機関 副所長

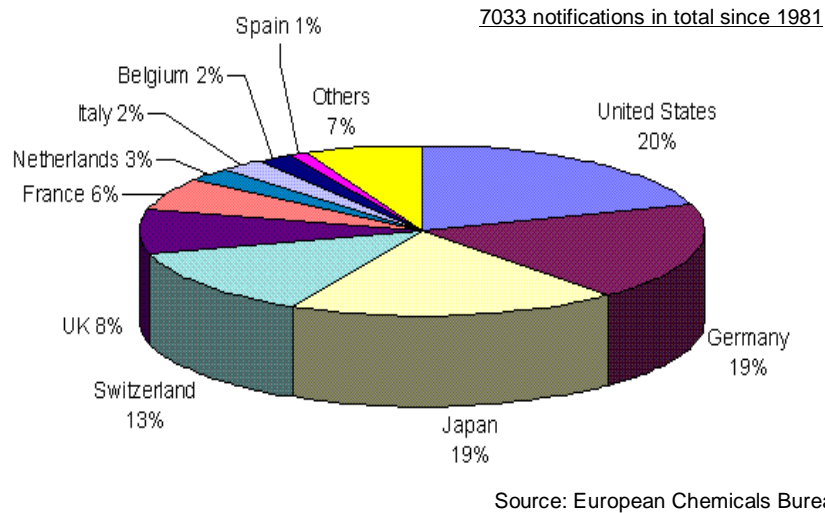
1

## 概略

1. 全体的コンテキスト
2. 世界潮流を踏まえた日中韓の化学物質管理に関する国際ワークショップ
3. 化学物質に関する政策動向
4. 国際的な動向にどのように対応するか？
  - GHS
  - REACH
  - SAICM
3. 化学物質アセスメント、管理、コミュニケーションに対してどのようにアプローチを改善するか？
  - 既存物質
  - 代替物質
  - マルチステークホルダーの参加
  - ライフサイクルアプローチ
  - 地域協力

2

## 全体的コンテキスト #1



## 全体的コンテキスト #2

1. WSSD (ヨハネスブルグサミット)
  - 2020年目標の達成に向けた取り組みが各国・各地域でスタート。
2. SAICM(国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ)
  - 2006年2月に国際化学物質管理会議(ドバイ)で採択。
  - ドバイ宣言、包括的方針戦略、世界行動計画から構成される。
  - 2002年のヨハネスブルグサミット(WSSD)で定められた実施計画において、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への悪影響の最小化を目指す。
3. REACH
  - 2006年12月成立。本年度7月以降、段階的に施行。
  - EU化学品産業の競争力を高めつつ、化学品のリスクから人の健康や環境の保護を改善することを目指す。
4. GHS(化学品の分類および表示に関する世界調和システム)
  - 2003年に国連から発出されており、2008年中(アジア太平洋諸国は2006年中)を目標に、国際的に導入。

## 2. 世界潮流を踏まえた日中韓の化学物質管理 に関する国際ワークショップ

- 目的
  - 日本・中国・韓国における化学物質管理に関する現状及び今後の取組方針についての情報を共有すること。
  - 欧米等での動向を踏まえつつ、この分野で日本・中国・韓国が今後直面すると思われる課題の各国別の整理を行ったこと。
  - 国際的に連携して取り組んでいくことが適当である課題と連携の在り方を明らかにすること。
- 参加者:  
日本、韓国、中国、欧州、米国、カナダ
- 日時、場所  
2007年3月28日～29日(於:IGES)

5

## 3. 化学物質に関する政策動向

- (i) 国際的展開への対応
  - (ii) 統合的アプローチの促進
  - (iii) リスク管理を原則とした化学物質政策
  - (iv) 産業界など多様なステークホルダーの役割の増大
  - (v) 多様な利害関係者の参加の促進
- \* 具体的政策の推進にあたっては、国ごとの社会・経済条件を勘案することが必要。

6

#### 4.国際的な動向にどのように対応するか？

##### - GHS -

###### 認識

- 国内:関連する省庁での連携が困難。
- 国際:各国間での分類の齟齬。

###### 対策

- 省庁間委員会などでの調整が重要
- 各国での情報共有の促進
- 暫定期間の設置の可能性
- 完全実施には、各国の能力向上が不可欠
- ノウハウやツールの共有
- 分類結果の共有

7

#### 4.国際的な動向にどのように対応するか？ #2

##### - REACH -

###### 認識

- REACHは北東アジアの輸出事業者に大きな影響。
- 中古品、リサイクル品などの流入の可能性。

###### 対策

- REACHに関する情報提供のため、フォーカルポイントの設置。
- REACHに対応した仕組みの導入(例、中国版RoHS)。
- REACHにより蓄積された毒性情報等の共有。

8

#### 4. 国際的な動向にどのように対応するか？ #3

- SAICM -

##### 認識

- 化学物質に関する国際的の協力の促進のための重要な機会を提供。

##### 対策

- 北東アジアにおける具体的協力は、他のアジア諸国への参考。
- アジアの途上国の能力向上の支援。

9

#### 3. 化学物質のアセスメント、管理及びコミュニケーション

- 既存化学物質 -

##### 認識

- REACHは、既存化学物質及び新規化学物質の区別なく、同一に管理。
- 既存物質のアセスメントを促進させるため地球規模での取り組みが必要。

##### 対策

- 企業に対して優先物質のアセスメントを促進させるHPVチャレンジプログラムの推進。
- 情報交換、技術移転、能力開発を通じて、既存物質のリスクアセスメントに関する国レベルの取り組みを促進。

10

### 3.化学物質のアセスメント、管理及びコミュニケーション #2 - 代替物質 -

#### 認識

- 代替物質は危険な化学物質による影響を削減するための重要なアプローチ。
- 高懸念物質のより安全な代替物質を開発することが重要。
- 北東アジアではさらなる取り組みが必要。

#### 対策

- REACHでは、認可申請の際に高懸念物質については、代替物質の代替計画やプログラムが必要。
- DfEを促進するための技術ガイダンスやツールの提供。
- 代替物質の研究・開発への資金的支援が必要。

11

### 3.化学物質のアセスメント、管理及びコミュニケーション #3 - マルチステークホルダーの参加 -

#### 認識

- マルチステークホルダーの参加は、リスク管理、リスクコミュニケーションにおいて不可欠。

#### 対策

- 意思決定においてステークホルダーの参加を確保するためのプロセスやメカニズムの確保。
- 化学物質の地域毎の排出状況などの情報へのアクセスの確保。
- アジア地域での化学物質管理に関する優良事例の共有。
- 安全データシート(SDS)による情報共有の徹底。

12

### 3.化学物質のアセスメント、管理及びコミュニケーション #4 - ライフサイクルアプローチ -

#### 認識

- 製造から廃棄までを対象としたライフサイクルアプローチが重要。

#### 対策

- 環境に配慮した製品やサービス(DfE)の提供が重要。
- 環境に配慮した適切なリサイクルや廃棄物処理の推進。そのため、製品内における化学物質の情報を廃棄物管理のセクターと共有することが重要。
- 化学物質管理政策とリサイクルを含む廃棄物政策とのリンケージの強化。

13

### 3.化学物質のアセスメント、管理及びコミュニケーション #5 - 地域レベルでの協力 -

#### 認識

- 地域レベルでの適切な化学物質管理に関する協力の推進。

#### 対策

- カナダが実施している米国とメキシコとの協力枠組みは北東アジアの地域協力の参考。
- TEMMなどさまざまなチャンネルを通じて、適切な化学物質管理における政策対話を続けることが必要。

14

ご静聴ありがとうございます!!